

## 元万博少年の現万博訪問記 ～やはり万博は心躍る！～

弁護士知財ネット理事

弁護士・ニューヨーク州弁護士 平野 恵稔<sup>1</sup>

### 1 はじめにー 1970年万博に思いを寄せて

本連載の趣旨は「各人各様に気ままにビジュアルに」レポートすること<sup>2</sup>なので、私は、7月16日と28日に行った万博について、極めて個人的な視点で訪問記を書きたいと思います。

主催者によると16日は来場者数125,357人、28日は138,087人で、28日は夏休みに入って来場者数が増え、小学生らも大勢来ていました。28日は当日予約もほとんど取れず、この人数の差は大きいのだと思いますが、小学生が会場にいると自分の昔のことを思い出し、うれしくなります。

私は1970年（昭和45年）の大阪万博のとき小学校1年生でした。万博にはとても大きな影響を受けた「20世紀少年」<sup>3</sup>であり万博には深い思い入れがあります。

私の先の大阪万博の思い出といえば、まずは心躍る科学技術でした。今でいうならサイエンスでしょうが万博には科学技術が似合うと思います。万博開催のために設けられた大阪梅田の動く歩道で小学生の私が隣の歩道を歩く大人をぐいぐいと追い越し、科学の力を実感しました。1873年（明治6年）のウィーン万博から、発明の国際的保護の条約が討議され、1878年（明治11年）のパリ万博を経て、パリ条約（1883年（明治16年））に至ったことについては、中山信弘先生の論考で勉強させていただきました<sup>4</sup>。当時、私は特許という言葉さえ知らなかったと思いますが、科学が大好きな私は、関西で行列を作ると言うことが皆無だった時代に、わくわくしながら行列に数時間並んでアメリカ館の月の石を見たときに、「なんや、これは銭湯の軽石やんか」と思ってとてもがっかりした記憶が鮮明です。当時から、「恐らくそこらへんに転がっている石と外観は変わらない」と看破されていた<sup>5</sup>中山先生とは大違いで、筋違いですが20世紀少年として大人はひどいと思いました。ただ、総じて会場には科学技術があふれており、私はテレビ電話で通話したりして未来を感じていたのです。

もう1つは国際性です。万博会場には、様々な民族衣装を着た、肌や目の色、話す言葉の違う人々がたくさんおられました。外国人を見ることもそう多くなく、特にアフリカ系の人は見たこ

1 日弁連知的財産センター 2020（令和2）年度委員長、現国際PT座長

2 知財ぷりずむ2025年5月号1頁（伊原友己）

3 『本格科学冒険漫画 20世紀少年』は浦沢直樹による日本の漫画作品。大阪万博の時に小学生だった少年が大人になったときの物語。堤幸彦監督、唐沢寿明主演で2008年から2009年にかけて3部作で映画化された。

4 知財ぷりずむ2024年10月号2頁（中山信弘）

5 脚注4 1頁